

少女と海鬼灯

野口雨情

青空文庫

ある日、みつ子さんがお座敷のお縁側で、お友達の千代子さんと遊んでゐますと、涙ぐんだ小さな声で唄が聞えて来ました。

わたしの お家うちは

海なのよ

わたしの姉さん

母さんは

御無事で お家に

居をるでせうか

わかれて来てから

もう二年

一度もたよりは

ないけれど

お家に 御無事で

居るでせうか

唄は、ほんたうに哀^{あはれ}ッぽい悲しさうな声で又聞えました。

渚の沙^{すな}さへ

子があれば

わかれて逢はない

子があれば

雨風吹いても

思ふでせう

千代ちゃん みつちゃん

千代子さん

みつちゃん 千代ちゃん

みつ子さん

雨風吹いても

思ふでせう

『あら』とみつさんは『千代子さんお聞きなさい。お庭の土の中でうたつてゐるんだわ』とびつくりして云ひました。

しばらくすると、唄は又聞えて来ました。

わたしは お庭へ

捨てられて

夜昼 ひとりで

泣きました

どなたも 迎ひに

来てくれず

捨てらればなしに
なりました

『土の中でうたつてるのは誰?』とみつ子さんと千代子さんが大な声でおほき云ひますと、

わたしは 海の

ほほつき
鬼灯よ

わたしは お庭へ

捨てられて

今では お庭の

土の下 土の下

『まあ、鬼灯がうたつてるんだわ』『掘つてみませうよ』と二人は、小さい草引鋏で、この辺か知らと掘りますと、色のあせた海鬼灯が出て来ました。

『今しがた、うたつたのはお前なの』と訊きますと、『わたしです』と海鬼灯は、うれし

さうに涙を浮べて、『お母さんや姉さんに逢ひたいから海へ帰して下さい』と二人にたのみました。みつ子さんも千代子さんも可哀想に思つて、海鬼灯を木の葉の上へ乗せて、『かうして乗つてゐると海へゆけるからね』と裏の川へ持つていつて流してやりました。海鬼灯は、木の葉の上に捉^{つか}ま

情は他人のためならず

御恩は必ず返します

と、繰り返し繰り返し歌ひながら、水の流^{なが}れにつれて川下の方へ流れてゆきました。

青空文庫情報

底本：「定本 野口雨情 第六卷」 未來社

1986（昭和61）年9月25日第1版第1刷発行

底本の親本：「小学女生」

1921（大正10）年11月

初出：「小学女生」

1921（大正10）年11月

入力：林 幸雄

校正：今井忠夫

2003年11月24日作成

2016年2月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

少女と海鬼灯

野口雨情

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>